

自然博物館
ニュース

A・MUSEUM

[2004.9.25] 環太平洋博物館国際シンポジウム特集号



ミュージアムパーク

茨城県自然博物館



環太平洋博物館 国際シンポジウム開催!

International Symposium of Museums in the Pacific Rim Countries

2004年11月14日(日)



Anniversary

おかげさまで10周年 -In Appreciation of your Support-

開館10周年記念イベント「環太平洋博物館国際シンポジウム」を開催します

皆様、開館10周年記念企画展「恐竜たちの足音が聞こえる - 中国 そして日本 -」はもうご覧になりましたか。中国内蒙古自治区で発掘された最新の恐竜化石が相当数展示されており、見どころ満載です。今回は通常より会期を延長して4カ月間開催しています。開幕してから2カ月経ちましたが、会期はたっぷり残っていますので是非ご覧ください。

そして、この企画展の最終日11月14日(日)に開館10周年記念イベント「環太平洋博物館国際シンポジウ

ム」を開催します。当館は開館以来、海外の博物館の協力による企画展開催や共同調査研究など国際交流を重要な活動の1つに位置づけてきました。特に海外協力企画展は、地球的規模での最新の自然情報の提供、世界各地の自然史資料の収集、国際的なネットワークの構築など、いろいろな成果を収めてきました。

当館は開館10周年を迎え、このシンポジウム開催を機に新たな博物館活動を展開していきたいと考えています。皆様も是非ご参加ください。

環太平洋博物館国際シンポジウム

International Symposium of Museums in the Pacific Rim Countries

テーマ「自然とともに 市民とともに」

Searching for a New Image of Museums: Harmonization with Nature and Collaboration with Citizens

趣 旨

開館10周年のこの年、当館は新しい博物館の目標を「自然と共生し、市民と協働する博物館」としました。シンポジウムのテーマ「自然とともに 市民とともに」は、この目標をシンボリックに表現したものです。

このシンポジウムでは、太平洋を取り囲む世界の博物館が一堂に会し、皆様とともに新時代の博物館の姿を語り合います。また、同時開催のジュニアフォーラムでは、次世代の博物館を担う日米のジュニアが、博物館に寄せる想いを熱く語ります。

期 日

2004年11月14日(日)

会 場

エポカルつくば(つくば国際会議場)大ホール
茨城県つくば市竹園2-20-3 TEL 029-861-0001

発表者

ジェーン・G・ピサノ館長
ロサンゼルス郡立自然史博物館(アメリカ合衆国)
邵清隆館長 内蒙古自治区博物館(中華人民共和国)
セドン・ベントン館長
テパパトンガレワ国立博物館(ニュージーランド)
イ・ビョンフン会長 自然史博物館研究協会(大韓民国)
中川志郎館長 ミュージアムパーク茨城県自然博物館

日 程

開 会 10:00-10:15

主催者挨拶

午前の部 ジュニアフォーラム 10:15-12:10

開催趣旨説明, 活動発表, 総合討論

午後の部 国際シンポジウム 13:30-17:00

開催趣旨説明, 各館からの提言, 総合討論

このイベントへは、当館のホームページ、電話またははがきにてお申し込みください。

TEL0297-38-2000 ホームページ <http://www.nat.pref.baraki.jp/>

特別企画「ジュニアフォーラム」 Special event "Junior Forum"

テーマ

「博物館と私」 "Museum and I"

目 的

博物館で活躍する日米のジュニア学芸員が集い、活動の様子や自分の夢を語り合います。

発表館

ロサンゼルス郡立自然史博物館
大阪市立自然史博物館
ミュージアムパーク茨城県自然博物館

特別企画「ジュニアフォーラム」

国際シンポジウムに先立って、午前で開催されるジュニアフォーラムでは、博物館で活動する日米の中学生と高校生が、それぞれの博物館での活動内容や博物館で活動することの面白さ、そして、将来の夢などを語り合います。

自然科学を学ぶ学生が減少している今日、博物館でも将来の学芸員後継者となるべき中学生や高校生を育成することは1つの課題です。近年、各地の博物館で小学生や中学生向けの体験講座の開催が増えてきましたが、自主的に博物館的な活動に取り組む高校生が見られる博物館は、国内国外を問わず少ないのが現状です。そのようななかで、当館と姉妹館であるロサンゼルス郡立自然史博物館では、古くからこのような事業に取

り組み、中高生がスチューデントボランティア^{しょう}と称して、学芸員の調査研究や教育普及活動^{ふきゅう}の手伝いを通して博物館活動へ参画してきました。また、国内では、大阪市立自然史博物館で、2000年よりジュニア自然史クラブが発足し、学芸員の指導のもとに博物館内外での実習や観察会などを行っています。そして、当館のジュニア学芸員事業は、大阪市立自然史博物館に1年遅れて2001年より開始し、今年で4年目を迎えました。

それぞれの博物館での活動は少しずつ違いますが、自然が好きで科学に^{あこが}憧れ、博物館に集うなかまの気持ちは1つに結ばれています。ここでジュニアフォーラムで発表するメンバーを紹介しましょう。

■ロサンゼルス郡立自然史博物館のスチューデント ボランティア

●レイチェル・アロノウィッツ さん(大学1年生)

私は小さい頃から、家族と一緒に博物館のイベントに参加していました。そのうち、化石発掘のキャンプや昆虫の調査などのお手伝いをするようになりました。最近、サマープログラムや自然体験などの教育活動を中心に活動しています。

●マシュー・ギルソン 君(中学2年生)

博物館には小さい頃から家族でよく訪れていました。僕はいろんなことに興味があり、多くの学芸員やコレクション・マネージャーの人たちのお手伝いをしてきました。特に、脊椎動物の化石をクリーニングするのは、とても楽しいです。

■大阪市立自然史博物館のジュニア自然史クラブメンバー

●藤本 龍之介 君(高校1年生)

2001年からジュニア自然史クラブに参加しています。甲虫に関心があり、最近ではゴミムシやオサムシなど徘徊性の昆虫を調べています。他にも生きもの全般に幅広く興味があり、動物の骨格標本なども作りました。

●平野 尚浩 君(高校1年生)

2002年からジュニア自然史クラブに参加しています。淡水、海水にかかわらず貝類の分類には自信があります。今、最も関心がある貝は、キセルガイやカタツムリなどの陸貝です。自分で集めた貝のコレクションもたくさん持っています。

■ミュージアムパーク 茨城県自然博物館のジュニア学芸員

●菜花 健作 君(高校2年生)

ジュニア学芸員育成事業がはじまった2001年から活動しています。幼い頃から何度も訪れた茨城県自然博物館での活動は、自分の自然に関する興味の幅を広げてくれました。今は、身近に見られる哺乳類の生態についてより詳しく知りたいと思っています。

●亀崎 健太 君(高校2年生)

博物館のジュニア学芸員としての活動も3年目になりました。これまでに活動してきた内容は植物化石の調査と鳥類仮はく製の製作についてです。今年は自分の住んでる町を流れる川と池の生きものについて研究しています。

環太平洋博物館国際シンポジウムに参加する博物館

内蒙古自治区博物館(中華人民共和国)

Inner Mongolia Museum

内蒙古自治区は、中華人民共和国第3の面積をもつ省・自治区で、中国の北部にあり、モンゴル国及びロシア連邦との国境に面しています。自治区の多くはモンゴル高原にあり、西にはゴビ砂漠、東にはモンゴル草原が広がっています。

内蒙古自治区博物館(以下「内蒙博」)は首府フフホト市の中心街にあり、内蒙古自治区における騎馬民族の歴史と恐竜などの自然史の両面について、資料の研究と収集保存の中心を担っている博物館です。敷地面積は約10,000㎡、展示室の面積は約6,000㎡あり、自然、歴史文物、民俗文物、革命文物の4つの展示室があります。歴史・民俗文物と恐竜化石などを中心とした収蔵資料は10万点を超過しており、116名のスタッフが展示や研究、資料保存などの業務を分業して勤務し



内蒙古自治区博物館(中華人民共和国)

ています。この内蒙博と当館とは、当館が開館する以前の1993年から恐竜化石調査などによる交流が始まりました。当館が開館の際には、内蒙古自治区から産出したヌオエロサルウスと松花江マンモスの複製標本が組み立てられ、当館のシンボルとなりました。その後、企画展の共同開催などを経て、1997年には両館は友好姉妹館となり、21世紀に向けた協力関係を約束しました。そして、当館が開館10周年を迎える今年、両館が共同で記念企画展「恐竜たちの足音が聞こえる - 中国そして日本 -」を開催しました。

この内蒙博は、3年後には設立50周年を迎えます。内蒙博では、この50周年を機に新しい建物を建設し、さらに大規模な博物館へと姿を変える予定です。



邵清 館長

1952年内蒙古自治区生まれ。東北師範大学歴史学を1977年卒業後、内蒙古自治区シム盟博物館に就職。後に館長に就任。1997年に内蒙古自治区博物館に転任し、館長に就任。中国古代表方民族史、古代北方民族文化財と博物館の研究に従事。大規模な文化財展を日本、米国、フランス等で開催。「契丹狩猟民俗」等論文数10篇を相次いで著述。発表し「中国古代鞍馬文化」等図書冊の編纂で中心的役割を果たしている。

ロサンゼルス郡立自然史博物館(アメリカ合衆国)

Natural History Museum of Los Angeles County

ロサンゼルス郡立自然史博物館(以下「ロス博」)は、1913年に開館したアメリカ合衆国西海岸屈指の大型博物館です。約90年の歴史の中で収集されたコレクション数は、3300万点にも及びます。ロス博は、ロサンゼルス市中心部に位置するエクスポジション公園の中にあり、年間の入館者数はおよそ150万人です。学芸員、事務職の他に、教育部門、展示部門にも多くの専門スタッフがいます。展示は鉱物、古生物、動物、民族と幅広く、ジオラマによる展示が中心で見やすく構成されています。

当館とロス博との交流は、1992年に借展園とジャパラム・リージョナル公園(ロサンゼルス郡)の姉妹館締結をロス博で行ったことから始まりました。1994年、当館のオープンに際しては、ロス博の協力を得て開館記念企画展「サーベルタイガーの世界」を開催しました。



ロサンゼルス郡立自然史博物館(アメリカ合衆国)

さらに1996年には、「鉱物たちの素顔」、「鯨・太古からの使者」の2つの企画展をロス博の協力で開催しました。こうして交流が深まり、1998年5月11日、両館は姉妹館としての締結に至ったのです。同年11月には、その締結を記念して企画展「鯨 Cetacea」をロス博の資料を中心に開催しました。ロス博との交流は企画展の開催だけでなくとどまらず、教育部門でのスタッフの交換や国際的な催しへの参加など、人的な交流も盛んに行われてきました。

ロス博の分館のひとつにページ博物館があります。この博物館があるハンコック公園は世界的に有名な化石産地です。原油が地層の隙間から湧き出し固まった岩石の中から、サーベルタイガー、オオカミ、オオナマケモノなどの化石が大量に見つかっています。



ジェーン・G・ピザノ 館長

スタンフォード大学で政治学を学び、ジョン・ホプキンス大学で国際関係学で博士号を取得。その後、ジョージタウン大学に勤務する傍ら、ホワイトハウスの国家安全委員会のスタッフとして勤務。ロサンゼルスに移ってからはカリフォルニアの様々な財団で代表的な役割を果たし、ロス博のすぐ隣にある南カリフォルニア大学(USC)の副学長を経て、2001年1月にロス博の館長に就任。

自然博物館研究協会(大韓民国)

The Korean Association for the Study of Natural History Museums

協会は、1991年に、26の学会及び団体が参加した国立自然博物館設立委員会として出発しました。1995年に現在の名称に改名され、各種の自然資料に関する学術研究と国家自然遺産の保護や、国民教育の場としてその機能を遂行する自然博物館の建設を進める一方で、全国の自然博物館の相互協力と情報交流をはかっています。最近では、42の学会団体が署名した声明書を発表し、政府に国立自然博物館建設の必要性を強調しました。



イ・ビョンフン 会長

1939年、仁川生まれ。全北大学校名誉教授。理学博士。ソウル大学校にて動物生理学修士号、高麗大学校にて昆虫分類学修士号を取得。米国のEastWestCenterで博物館管理課程を修了した後、フランス国立自然博物館で客員研究員として勤務した。1979年に全北大学校に赴任し、2000年から社団法人自然博物館研究協会の会長職にある。1995年以来、韓国科学技術翰林院の正会員として自然博物館の振興と進化生物学の研究に尽力しており、著書として『遺伝子運の競争』と『自然博物館と生物多様性』等がある。

内蒙古自治区博物館

自然史博物館研究協会

ミュージアムパーク茨城県自然博物館

ロサンゼルス郡立自然史博物館

テバパ トンガレウ国立博物館

環太平洋博物館国際シンポジウムが開催される

エポカルつくば(つくば国際会議場) Tsukuba International Congress Center



エポカルつくばのエントランスホール

エポカルつくば(つくば国際会議場)は、400インチのハイビジョン対応プロジェクターや、最大で6カ国語対応の同時通訳システムなど、最新鋭の会議支援設備を備えた会議場です。

このエポカルつくばで、太平洋を取り囲む世界の博物館が一堂に会し、皆様とともに新時代の博物館の姿を語り合います。

所在地/茨城県つくば市竹園2-20-3

環太平洋博物館国際シンポジウムに向けて ジュニア学芸員交流会



昆虫観察の様子

11月14日(日)に開催される開館10周年記念「環太平洋博物館国際シンポジウム」のジュニアフォーラムに向けて、当館のジュニア学芸員代表10名と大阪市立自然史博物館のジュニア自然史クラブの代表3名が参加して、8月17日～19日の3日間で行われました。

交流会は、当館の展示見学からはじまり、2日目は、筑波山に登山と昆虫観察、そして、農業環境技術研究所昆虫標本館見学と忙しい日程でしたが、ジュニアたちは、常に熱中し様々な質問をしていました。また、それぞれの博物館での活動や興味・関心を持っていることについて情報交換をし、親睦を深めることもできました。ジュニアフォーラムでは、実践発表とともに活発な意見交換が期待されます。

テバパ トンガレウ国立博物館(ニュージーランド)

Museum of New Zealand Te Papa Tongarewa

テバパ トンガレウ国立博物館(以下「テバ博」)は、自然科学とマオリ族の歴史等に関する資料を収集し、その重要性について展示を通してアピールすることを主眼に置いて、1998年にニュージーランドの首都ウェリントンのベイエリアにリニューアルオープンしました。テバ博では、自然科学と歴史を同格で紹介するという点に特徴があります。これは、ふたつの分野の重要性と、その結びつきの深さについて十分に考慮されていることのあらわれだと考えられます。

400人以上の職員は2名の館長がおり、ここでも、自然科学と歴史のバランスに対する配慮がなされています。その他の職員も、それぞれの専門性を生かした場所に配置されたうえで、その分野のプロとしての成果を期待されています。研究者や資料管理以



テバパ トンガレウ国立博物館(ニュージーランド)

外でも、たとえばイメージライブラリーという映像資料を専門に扱う部署にはプロのカメラマンが勤務しており、収蔵資料の記録とデジタル化を担当しています。

テバ博に収蔵されている資料は自然科学分野だけでも500万点を超過し、ニュージーランドに特有な自然環境の記録として非常に貴重なものが多数保管されています。そのため、資料の保護にも力が入られており、当館の開館10周年記念企画展に展示する資料を借用した際にも、温度や湿度の管理はもとより、退色を防止するための照明の制限や紫外線からの防御など細かい条件がつけられてきました。

変化に富んだニュージーランドの自然と文化をバックに、今後、テバ博の重要性はさらに増していくことでしょう。



セドゥン・ベニンントン 館長

ニュージーランド出身。カンタベリー大学で動物学の博士号取得後、オーストラリアおよびアメリカの科学系博物館の館長を経て、2003年にテバパ トンガレウ国立博物館の館長に就任。専門分野以外に芸術全般の知識が豊富で、その分野での活躍も期待されている。

ミュージアムパーク茨城県自然博物館(日本)

Barak i Nature Museum

当館は、いつでも、どこでも、誰でも、自由意志で学ぶことができる新しいタイプの博物館として、1994年11月13日に開館しました。この10年間、多くのお客様をお迎えし、入館者も1996年には100万人を超え、現在では累計500万人に迫るいきおいで、日本有数の自然史系博物館の1つに数えられています。

ストーリー性を持つ5つの常設展示の他、これまでに30回以上開催された企画展示、茨城県最大の自然環境保全地域である菅生沼に隣接した15.8haを誇る野外施設などが特徴です。国際交流も積極的に行い、海外調査も含めて8カ国との交流がありました。1997年には内蒙自治区博物館、1998年にはロサンゼルス郡立自然史博物館と姉妹館締結を行い、海外の博物館との連携が強化されました。



ミュージアムパーク茨城県自然博物館

また、当館は、友の会、ボランティア、学校など、多くの方々を支えられています。そして、現在、「環境」をキーワードにして博物館を中心としたネットワークができています。その例として、2003年に友の会が中心となって行った菅生沼の清掃「菅生沼エコアップ大作戦」があります。また、学校教育とのかわりでは2002年度からはじめられた飯沼川周辺環境学習プログラム開発事業があげられ、目下それらの成果がまとめられつつあります。

次世代の人材育成にも重点的に取り組んでおり、2001年度からジュニア学芸員育成事業を開始し、博物館活動や自然に興味、関心を持つ中学生や高校生が活発に活動を行っています。



中川 志郎 館長

1930年 茨城県生まれ。宇都宮大学獣医学攻科を経て東京都立上野動物園勤務。1969年に東京都海外研修生としてロンドン動物学協会へ留学。上野動物園の(ンダ)飼育プロジェクト(1972年)や都立多摩動物公園の(ンダ)飼育プロジェクト(1983年)を担当した後、1987年 上野動物園長に就任。1994年 茨城県自然博物館館長に就任。現在、財団法人日本博物館協会会長や 財団法人日本動物愛護協会理事長を兼務する。著書として『動物園学とはしめ(玉川大学出版部)』や『動物(未来社)』等がある。

第32回企画展 茨城の自然を調べる - 第3次総合調査 -

マンボウが夢みるブナの森 - 茨城県北東部 海・山・川物語 -
2004年12月11日(土)~2005年2月27日(日)



海産無セキツイ動物の調査(日立市小貝浜海岸)



北茨城市関本町定波のブナ(撮影:柏 義夫氏)

当館では、2000~2002年度の3年間をかけて茨城県北東部地域の自然を調べる「第3次総合調査」を実施しました。この企画展では、当館が多くの調査協力者の方々とともにすすめてきた総合調査の成果をもとに、この地域の海・山・川の姿を紹介します。

この地域の沿岸には、マンボウが回遊してきます。当館常設展示の標本をはじめとし、世界最大級のマンボウのはく製標本は、すべてこの海域で採集されたものです。また、当館第3展示室「自然のしくみ」内の山地林のジオラマは、最も代表的な県内の山地林の姿を紹介すべく、今回の調査地域の1つである北茨城市関本町定波のブナ林をモデルにしています。

これらの事実をみてもわかるように、この地域は海岸からいっきに阿武隈山地がそそり立っているため標

高差が大きく、そのために変化に富んだ自然が存在します。今回の調査では、日本初記録種となるヤマホソシロトビムシはじめ県内初記録種が約20種に及ぶほどの新たな知見を得ることができました。

この企画展では、マンボウを案内人に、海岸から奥深いブナの原生林に至るまで、豊かな自然の姿と、これらの自然を支えてきた地史及び人との関わりについて紹介していきます。(教育課:高橋 淳)

総合調査とは?

県内の自然の全体像を明らかにするために行う、茨城県自然博物館では最大規模の調査事業です。県内を4ブロックに区分けし、動物・植物・地学の各分野ごとに1ブロックを3年間をかけて調査しています。すでに、県南西部、県中央部、県北東部と調査をすすめ、現在は県北西部の調査を行っています。2006年には県内全域を一巡する予定です。

[交通案内]



常磐自動車道谷和原 IC から20分。
JR柏駅で東武野田線乗り換え、
東武野田線愛宕駅~茨城急行バス
「岩井車庫行き」乗車
~「自然博物館入口」下車、
徒歩10分。



[開館時間]
午前9時30分から
午後5時まで
(入館は4時30分まで)
ペット及び遊具等の
お持ち込みはご遠慮く
ださい。

[入館料]

区分	本館・野外施設		野外施設のみ
	企画展開催時	通常時	
大人	720円(580円)	520円(420円)	200円(100円)
高校・大学生	440円(300円)	320円(200円)	100円(50円)
小・中学生	140円(70円)	100円(50円)	50円(30円)

(注):()内は団体料金(20名以上)
未就学児・昭和13年4月1日以前に生まれた方・障害者手帳をお持ちの方は入館無料です。

つぎの日の入館料は無料です。
4月29日(みどりの日) 6月5日(環境の日)
11月13日(茨城県民の日) 春分の日
高校生以下の児童・生徒は毎週土曜日
(但し、春・夏・冬休み期間中を除きます。)

編集後記

環太平洋博物館国際シンポジウムの開催に合わせて、今号は特別編集となりました。新しい時代の博物館の在り方を探るシンポジウムに、ぜひA・MUSEUMをご覧の皆様も参加してください。(TM)

[休館日] 毎週月曜日(但し、10月11日(月)は開館し、翌日休館となります。)